

日本外交文書

ロー
ンドン
三
海軍
〇
會議
年
下

外
務
省

序

外務省編「日本外交文書」は、明治期を経て大正期も完結に近づきつつある。

昭和期については、既に「満州事変」全七冊の刊行を終了し、目下これに続く特輯のシリーズとして、「海軍軍縮会議」の文書の刊行を進めている。

そこでこのたび、昭和五年のロンドン海軍軍縮会議に関する文書を上下二巻に分けて刊行することとした。この下巻では、昭和五年一月二十一日会議開催以後の関係文書を中心に採録した。

軍縮問題が最近重要視される折柄、本書が同問題の歴史的研究に資すると共に、今後の我が国外交政策の樹立に当って何らかの寄与をなし得れば幸いである。

昭和五十九年九月

外務省外交史料館長

例 言

一、本書に採録された文書は、編纂に当って原文の改変、削除、簡略化などは行なわれていない。ただ明らかな誤字などは訂正し、漢字はなるべく当用漢字を使用した。

二、各事項の文書において、発電日付不明のものは着電の日付で採録し、日付表記に当っては、例えば7月(9)日とカッコを付して区別した。

三、各事項の文書は、それぞれの事項のもとに暦日順に配列し、各事項を通した文書番号を付した。

目次

四	会議の経過	一
五	条約批准関係（条約実施関係を含む）	二九四
六	英仏伊海軍交渉関係	三五九
七	浜口首相遭難関係	四六〇
付録	一九三〇年ロンドン海軍会議（上・下）日付索引	

- 一 ジュネーヴ軍縮会議後の情勢
- 二 英米準備交渉関係
- 三 会議招請及び非公式交渉関係

(以上 上巻)

四 会議の経過

297

昭和5年1月20日 ロンドン軍縮会議全権より
幣原外務大臣宛(電報)

会議の議事進行の方法に関する打合せについで

ロンドン 1月20日後発
本省 1月21日前着

第四七号

一月二十日午前十時首相官邸ニ首席全権(英自治領ヲ含ム
尚仏国ハ「タルデュウ」「ブリアン」ノ二名)会合

一、二十一日ノ開会式ニ於テハ各国ハ成ルヘク簡單ニ儀礼
的挨拶ヲ為スニ止ムルコト而シテ演説順序ハ英語国名ノ
「アルファベット」順ニ依ルコト(今後ニ此ノ種ノ演説
ヲ為ストキハ常ニ同様ノ順序ニ依ルコト)ニ決定ス

二、英国原案ハ議長選任モ他ノ役員ノ選任ト同時ニ二十三
日會議ニ於テ之ヲ為スコトトシ二十一日ノ會議ニ於テハ
「マクドナルド」ハ「ホスト」トシテ會議ヲ主宰スルコ
トトナリ居タルカ「スチムソン」ノ意見ニ基キ二十一日

皇帝ノ演説直後「マクドナルド」ヲ議長ニ選挙スルコト
ニ決定セリ

三、副議長ハ各国首席全権トシ必要ノ場合ニハ「アルファ
ベット」順ニテ議長ノ席ニ着ク事ニ決定

四、二十三日ノ総会ニテハ各国ハ自国ノ立場ニ関スル一般
的報告ヲ為スニ止メ論争ヲ招クカ如キ細目ニ亘ル提言ヲ
為サル事ニ決定

五、二十三日會議ニ於テ第一及第二委員会ヲ設立シ第一委
員会ハ各国全権全部出席シテ會議ノ実質的事務ヲ討議ス
ルコトトシ第二委員会ハ首席全権若ハ其ノ代理者出席シ
テ會議ノ日程其ノ他形式的事務ヲ定メ且會議ノ円滑ヲ計
ル為内相談ヲ為シ會議ノ停頓又ハ破裂ノ危険急迫セリト
言フカ如キ万一ノ場合ニ処スルコトトシタシトノ英首相
ノ提言ニ対シ「スチムソン」ハ第一委員会ニ付テハ夫レ
ニテ差支ナキモ第二委員会ハ之ヲ形式的ニ決定シ置カス
トモ当然事実上開カルヘキ会合ニシテ斯ル会合ヲ招集ス
ルコトハ議長ノ権限内ニ含マルルモノト考フル方然ルヘ